

まなびや訪問

金融教育研究校・
金銭教育研究校
の紹介



ライフサイクルゲームに取り組む様子



金融広報アドバイザーによる講演



校舎外観



金融商品について学ぶ授業風景



埼玉県立和光高等学校

和光高等学校は今年で51年目を迎えます。1、2年生は1クラス30名程度の少人数学級編成で、一人ひとりを大切にした指導を行い、地域社会で活躍できる人材の育成をめざしています。約半数の生徒が卒業後は就職することから、本校の家庭科では生活設計を中心とした授業を展開し、これからの時代を生き抜く力の育成に努めてきました。

さて、今年度から施行された新学習指導要領では、家庭科で「金融商品の特徴」や「資産形成の視点」について触れるよう示されています。そのような中、本校は今年度より金融教育研究校として委嘱を受け、家庭科や総合的な探究の時間の中で、高校生が最低限身に付けるべき金融リテラシーの向上を図っています。

今回、「人生100年時代における生活設計」をテーマに三つの課題に取り組みました。一つ目は、持続可能な社会保障制度を形成していくために、「自助」「共助」「公助」の理想的な組み合わせを、生命保険会社が提供する「ライフサイクルゲームⅢ」を活用しながら生徒同士で

話し合い、生活設計の大切さについて学びました。二つ目は、金融庁の「ライフプランシミュレーター」を使用し、生涯賃金だけではゆとりある生活設計に不安があることを確認し、三つ目の課題である資産形成に繋がりました。資産形成においては、「投資」と「投機」の違いやリスクとリターンの関係などについて学習し、金融商品の選び方や金融トラブルについて理解を深めました。さらにファイナンシャル・プランナー(CFP®)の方々に講師として招き、金融教育カードゲーム「ほらべこオカミ」に取り組みながら「複利」と「長期運用」の効果を学ぶことができました。

これらの授業を通し、生徒たちは、資産形成が、身に付けなければならぬ生活スキルの一つであるということを知り、人生100年時代の観点から自身の生活設計を改めて考えることができたと思います。

今後は、家庭科だけでなく他教科とも連携しながら金融教育の充実を学校全体で図っていく、生徒たちがより良く生きる生活スキルの向上に努めていきたいと考えています。